

4) *Dryopteris Sieboldii* KUNZE ナガサキシダ

九州、四國（伊豫、土佐）、周防（岩國）に見る日本特産種の一であるが、田代善太郎氏は昭和二年九月淡路國猪鼻谷に発見された。

5) *Polystichum Braunii* FÉE ホソ井ノデ

本邦では北海道、樺太、千島、朝鮮に知られてゐるが、昨年八月杉野辰雄氏は之を甲斐國大武川に採取された。本州では他に産地を聞かぬ。海外にあつては滿洲、アムール、コーカサス、支那、歐洲、北米に分布する。

6) *Cystopteris sudetica* AL. BR. ET MILDR ヤマヒメワラビ

同じく杉野氏が信州駒ヶ岳に採取された。大井氏は昭和五年六月、北朝鮮の四芝嶺、倉坪嶺で採取されてゐる。内地では稀品に屬する。従來ヒカゲワラビと呼ばれてゐるが、*Diplazium Naganumanum* MAKINO の和名と混雜するから植物名彙452頁（大正五年）にあるヤマヒメワラビを採用しやう。

7) *Adiantum Capillus-Junonis* RUPR. ホウライクジャク

本種は支那西南部、臺灣（高雄）に知られてゐる珍種であるが、田代善太郎氏は之を豊後國南海部郡小半の石灰岩上に発見された。内地のシダ類に一種を加へたわけである。

8) *Polystichum Lonchitis* ROTH カラフトデンダ（新稱）

本種はヨーロッパ、ヒマラヤ、コーカサス、トルキスタン、カムチャツカ等北半球の北部に廣く分布し、北樺太ではすでに知られてゐるが、南樺太にも発見された。即ち坂勤氏は昭和四年保惠山に、翌年、菅原繁藏氏は幌登山に発見して、本邦のシダ類に一種を加へられた。カラフトデンダと新稱し、次に簡単に記載しやう。

根莖は短形、直生、葉は叢生、葉柄は3—5稜、基脚黒褐色、羽軸と共に鐵錆色薄膜質の卵狀披針形鱗密生、葉面は長橢圓狀披針形、銳頭、長15—20稜、徑2.5—3稜、單羽狀複生、各側羽片約30對、下部羽片は漸次縮小す、羽片は刀狀卵形乃至刀狀長橢圓形、鈍頭芒端、芒尖鋸齒緣、不等廣楔脚、上側耳垂、上面無毛、下面毛狀鱗散生、革質、囊堆は圓形、邊緣中脈の中間に列生、包膜は圓形、膜質、齒緣。

## 固有日本に於ける暖地性植物の北限

田代善太郎

今臺灣沖繩方面より由來する暖地性植物の分布を五段階に分ちて、ほゞ之を限界とする代表植物を擧ぐれば

第一段階 薩隅の外海側、日向の南端及五島の南端と土佐の足摺地方 ソテツ、

ヘゴ、セウベンノキ、モクタチバナ、ヤツコサウ、キイレツチトリモチ、アラノクマダケラン、ヤマゴンニヤク、ヒロハノコギリシダ。

第二段階 九州、四國の外海側、紀伊南部、(紀伊には栽植を見るのみ) 壹岐水道以南の島嶼及陸地、玄海の島嶼 ビロウ、アコウ、タチバナ、ハマビハ、ツゲモチ、ユズノキ、ヤマモガシ、トキハガキ、ナタヲレノキ(九州の西部にあり、對馬にも及べど東には之を見ず)、カウシウウヤク(九州の西部にあり東には之を見ず) ハカマカヅラ、ミヤコジマツヅラフヂ、クサマルハチ、オホタニワタリ、オホイハヒトデ、シマシロヤマシダ(西には之を見ず)。

第三段階 伊豆及房總半島並に附近、九州全域、防長及隱岐 イチキガシ、ヒメユヅリハ、バリバリノキ、バクチノキ、クロガネモチ、ネズミモチ、ミミヅバヒ、タイミンタチバナ、ヤツデ(日本海にては次の段階に及ぶ)。ハマナタマメ、フウトウカヅラ、ボタンバウフウ(日本海にては次の段階に及ぶ)。ハマオモト、ヤリテンツキ、リウビンタイ、タマシダ。

第四段階 磐城南部海岸地方、能登、佐渡、越後、スダジヒ、ウラジロ。コシダ。

第五段階 陸中南部、羽後等 タブノキ、モチノキ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、イブキビヤクシン(大平洋岸に限る)。ハマボツス。

此次に渡島及日高に終尾の段階あり遺存暖地帯とも見るべき暖地性植物群あり。

## 抄 録

大石三郎氏: レーチツク、ポストゴンドワナ、フロラの新屬ヤベエルラ屬 *Yabeiella* OISHI. in Jap. Jour. Geol. & Geogr. viii. p. 259-267, t. 26. 1931.

地球上最古の被子植物として一九二三年 J. H. HOSKINS 氏は北米の石炭紀最下部より Angiospermophyton を発見せりと云ひしも A. C. SEWARD 教授によれば、之は *Medulosa* の葉柄にして *Myeloxylon* なりと云はれ、被子植物の最古のものは矢張り H. THOMAS 氏が Yorkshire の侏羅紀より発見せる一種の果實是なりと云ふ、然るに 1929 年 G. R. WIELAND 氏はアルゼンチンの三疊紀最上部の レーチツク層よりトネリコ屬 (*Fraxinus*) 近似の被子植物の果實を発見したりと稱し、之を *Fraxinopsis minor* 及び *F. major* の二種として記載せり。若し果して此新屬植物の果實が被子植物のものなりとせば、地球上最古の被子植物は又更に遡りて三疊紀最上部を起源となす事になる。大石氏は WIELAND 氏の *Fraxinopsis* 果實は一種子双子葉